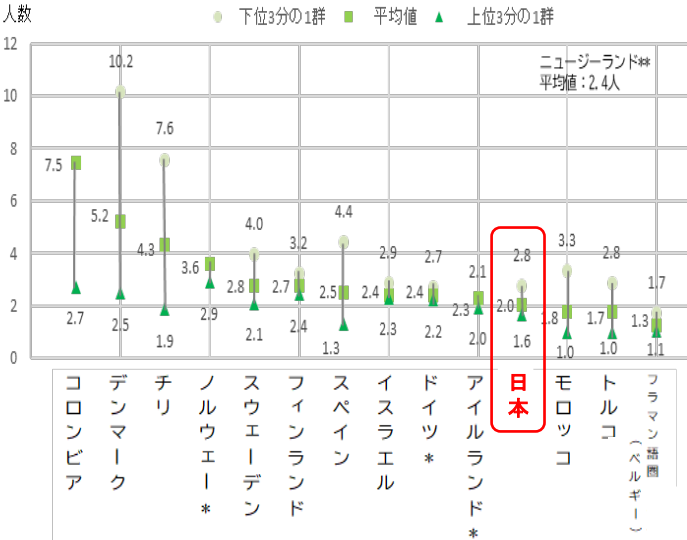


- 幼児教育・保育の従事者に焦点をあてた国際調査（第2回調査）
- 15か国・地域が参加し、日本は全国の国公立幼稚園・保育所・認定こども園から無作為に選ばれた189園の園長・所長、3～5歳児を担当する保育者に対して質問調査を実施

<1. 就学前施設を取り巻く環境について>

- **日本の子供に対する保育者の配置比率は、概ね他の参加国・地域と同水準である。**

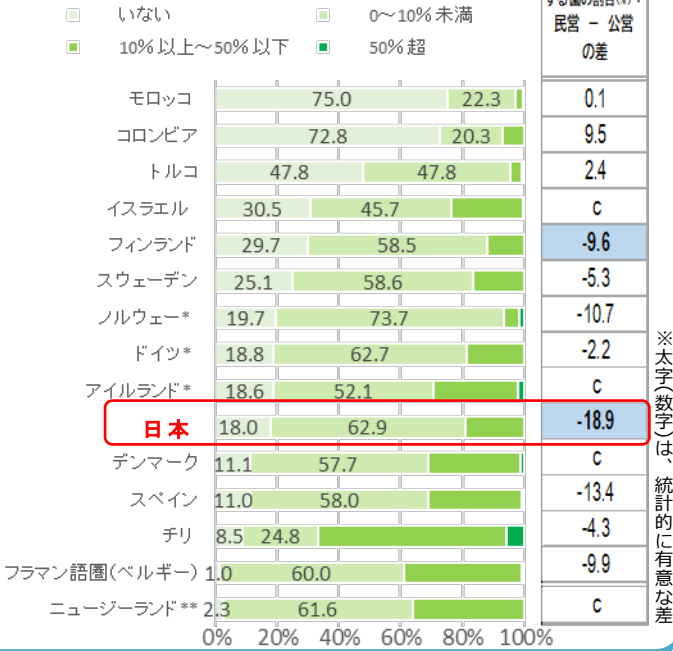
子供10人当たりの保育者数 <園長・所長質問紙>



※データは、在園児数と保育者数に関する園長・所長の回答であり、0～2歳児及びその担当職員の数が含まれている園がある。

- **日本では、約8割の園に特別な教育支援を要する子供が在籍しており、約5割の園に母語が異なる子供が在籍している。**

特別な教育支援を要する子供の在籍割合 <園長・所長質問紙>

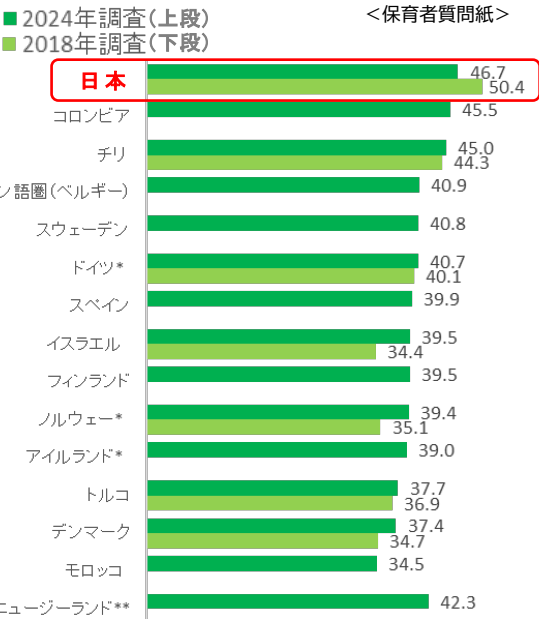


※太字(数字)は、統計的に有意な差

<2. 保育者の業務環境等について>

- **日本の常勤の保育者の仕事時間は、参加国・地域の中では最も長い、前回調査より改善。**

常勤の保育者の週当たりの仕事時間 (h)



- **日本の保育者及び園長等の満足度は、前回調査に比して同様もしくは低下の項目もある。一方、職務に対して支払われる給与への満足度については改善されている。**

仕事に対する保育者及び園長・所長の満足度 (日本) <保育者質問紙 及び 園長・所長質問紙>

現在の園での仕事を楽しんでいる	
保育者	80.3% [83.3%]
園長・所長	80.8% [87.2%]
全体としてみれば、この仕事に満足している	
保育者	75.9% [80.7%]
園長・所長	86.5% [94.8%]
職務に対して支払われる給与に満足している	
保育者	35.4% [22.6%]
園長・所長	49.3% [33.9%]

※カッコ[ ]内は、2018調査と同じ調査項目について、2018年の数値  
※「非常によく当てはまる」「当てはまる」と回答した保育者又は園長・所長の割合

※園で求められている業務に従事した時間(夜間や週末など就業時間外に業務を行った時間を含む)の合計を尋ねた。

(注) 2024年調査は常勤・他園との兼務なし・仕事時間15時間以上の保育者をもとに算出。  
2018年調査は、常勤・他園との兼務含む・仕事時間を問わずに算出。2018年調査を2024年調査と同じように算出した場合、2018年調査から2024調査年は、4.9時間減少する。

## <2. 保育者の業務環境等について>

- 日本の保育者の職務上のストレスの主なものは「同時にこなさなければならない仕事が多すぎる」が最も高く、次いで、「子供の育ちや学び、生活の充実に責任を負っていること」「保護者の懸念に対処すること」「特別な教育支援を要する子どものために環境を整えること」が挙げられた。

保育者の職務上のストレスの要因（日本）  
＜保育者質問紙＞

保育者			
同時にこなさなければならない仕事が多すぎること	子供の育ちや学び、生活の充実に責任を負っていること	保護者の懸念に対処すること	特別な教育支援を要する子供のために環境を整えること
51.8% 〔－〕	48.3% 〔43.8%〕	46.5% 〔－〕	44.5% 〔36.2%〕

※カッコ〔 〕内は、2018調査と同じ調査項目について、2018年の数値  
※「非常によく感じる」「かなり感じる」と回答した保育者の割合

- 日本では、ICT等の活用に関する養成課程等や研修等を受講した保育者が、他の参加国・地域と比べて少ない。一方で、ICT等の活用に関する研修等のニーズを非常に感じている保育者は約4割と参加国・地域の中でも高く、その活用に関する研修等が不足している可能性がある。

ICT等の活用に関する養成課程等や研修等への受講と研修等のニーズ（％）  
＜保育者質問紙＞

	日本	チリ	コロンビア	デンマーク	フィンランド	フラン語圏（ベルギー）	ドイツ*	アイルランド*
養成課程等	25.5	70.8	71.5	44.3	46.3	42.6	46.3	53.7
研修等	25.8	53.4	66.4	24.6	37.0	47.1	16.3	41.6
研修等のニーズ	37.1	24.0	36.2	11.1	12.6	15.3	23.9	15.5

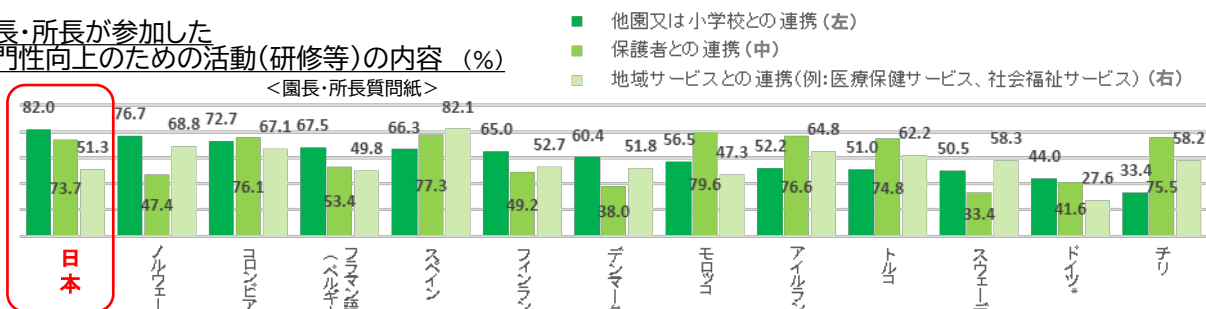
	イスラエル	モロッコ	ブルウェー*	スペイン	スウェーデン	トルコ	ニューージーランド**
養成課程等	64.4	65.2	61.7	68.5	52.9	78.5	55.3
研修等	53.8	61.5	35.6	79.7	48.1	59.8	30.9
研修等のニーズ	26.3	47.9	19.7	20.5	10.5	18.1	8.3

※「養成課程等」とは、保育の仕事に就くために受けた教育（養成課程）や研修  
※「研修等」は、調査前12か月の間に参加した専門性向上のための活動（研修等）  
※「研修等のニーズ」は、「非常に必要」と回答した保育者の割合

## <3. 保育者の資質能力の向上に係る取組（研修等）について>

- 日本では、園長・所長が研修等として「他園の見学」に参加している割合が参加国・地域の中で最も高い。研修等に「他園又は小学校との連携」「保護者との連携」に関する内容が含まれていた割合は、他の参加国・地域に比べて高い。

園長・所長が参加した専門性向上のための活動（研修等）の内容（％）  
＜園長・所長質問紙＞



※調査前12か月の間に参加した専門性向上のための活動（研修等）について尋ねた。

- 日本では、他の参加国・地域と同様に、研修の主要な妨げとして「他にやるべきことをやらなくてはならない」「自分の不在を補う人員が不足している」「専門性向上のための活動に参加する日程が自分の仕事のスケジュールと合わない」が挙げられる。一方、研修等の参加支援として行われている、研修費用の園による負担・立替や、研修等のための保育業務の免除は、他の参加国・地域よりも高い。

- 日本では、園長が保育者の実践や子供と関わっている様子を観察している割合が、参加国・地域の中で2番目に高い。

保育者の実践観察又は観察に基づいたフィードバックを毎週又は毎日行った園長・所長の割合（％）  
＜園長・所長質問紙＞

